

二子二子製薬（三重県伊賀市）は、同社が開発、販売する酵素処理乳酸菌「LFK」にインフルエンザによる肺炎を抑える機能があることを証明し、特許を取得したと発表した。乳酸菌の肺炎抑制効果が発見されたのは初めて。炎症メカニズムに直接作用するため、肺気腫や気管支炎など、炎症による肺疾患への効果も期待できるといふ。

二子二子製薬が特許

肺炎 乳酸菌で抑制

「LFK」は、健康な乳幼児の腸管から分離、培養し加熱処理した乳酸菌「FK-23」に、細菌の細胞壁を分解する酵素「卵白リゾチーム」を加えて特殊処理した乳酸菌素材。マウスを使った実験では、インフルエンザウイルス感染後の生存率が、LFKを与えなかったマウスは16%だったのに対し、毎日与えたマウスでは45%に改善した。

インフルエンザウイルスに感染すると、肺胞上皮細胞のバリアが破壊されて肺炎を発症する。だが、LFKを投与したマウスは過剰な炎症性細胞の肺への浸潤が抑えられ、呼吸器機能に重要な細胞に分化する「II型肺胞上皮細胞」も増殖。これらにより、肺機能障害が緩和されることが確認された。

酵素処理すると肺炎の抑制効果があることが確認された「FK-23」

（電子顕微鏡写真、二子二子製薬提供）

